

なのはな通信

第22号 2012.3



編集・発行

勤医会東葛看護専門学校

〒270-0174 千葉県流山市下花輪409

TEL 04-7158-9955 FAX 04-7159-7055

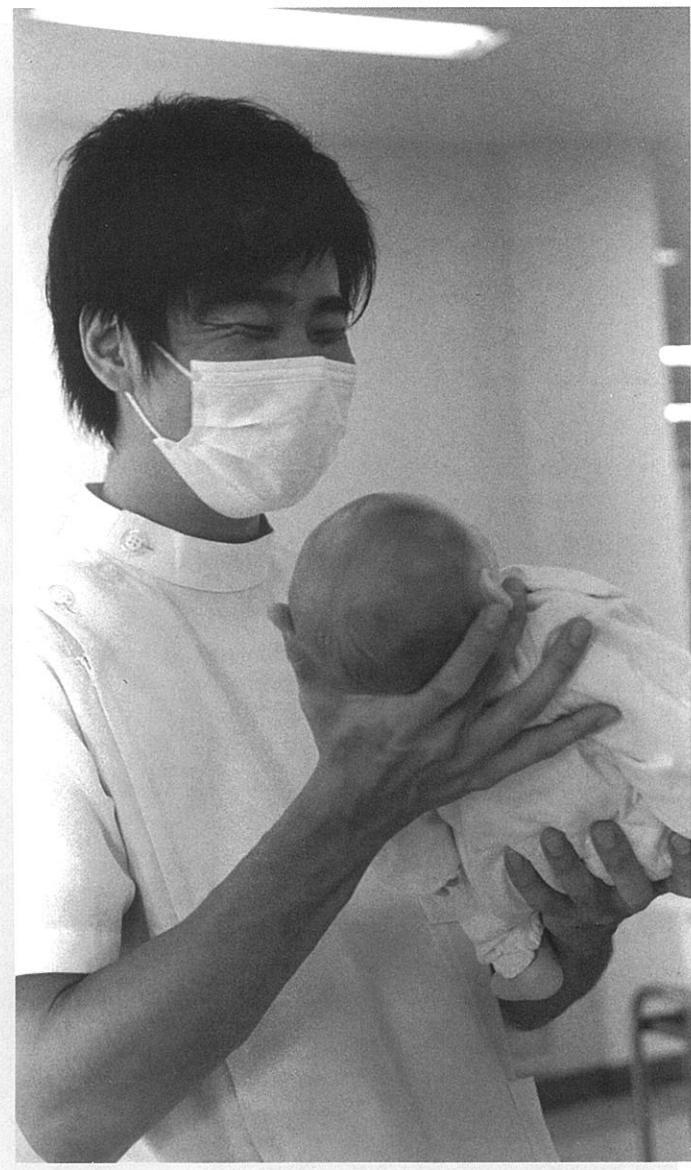
発行責任者 内野 陵子

患者さんの人生に共感し、 よりそえる看護を学ぶ学校

校長 竹内 信治郎



「なのはな通信」編集の季節をとても楽しみにしています。それは、本校の学生、教職員の1年間の教育活動を振り返り、楽しかったこと、苦しかったこと、みんなで頑張ったことを共に確認し合い、多くの方々に伝え、知っていたら喜びを感じることができるからです。



母性看護演習 撮影 小林 功

もう一つは、本校の看護学の集大成ともいえる1科、2科の総合実習をまとめた卒業論文の発表を聞くことができ、学生のみなさんの成長の姿に出会うことができるからです。

2年前、あるいは3年前の春、江戸川の土手一面に咲く菜の花の歓迎をうけ、入学したみなさんが、授業や実習、グループワークを中心とした学び合い、患者さんがその人らしく生きるとはどういうことか。患者さんの人生に共感し、患者さんによりそう看護とは何か、を模索しながら、さまざまな思いや辛い体験、自らの課題の克服にもがきながら「患者さんと向き合うことは、自分と向き合うこと」だと学ぶ姿、そして、仲間の支え、臨床指導者や日々温かく励まし、見守ってくれた先生方のやさしさに涙し、感動する場面に出会えるからです。

ある学生の卒業論文の一部を紹介させていただきます。「一つひとつの実習で受け持たせていただいた患者さんはもちろんのこと、私たちは多くの人たちに支えられ、助けられ、今、こうやって総合実習を終えることができた。医療者としてどうあるべきか、さまざまな学びを通して今思うことは、医療者である前に人としてどうあるべきか。入学してから何度も考へてきた課題である。人と向き合うことは、自分と向き合うこと。3年間を通して私を最も苦しめてきた命題である。この課題に本当に悩んだ。しかし、今は、自分自身を受け入れ、そこそこ納得できるようになったと思えるようになり、自分の成長を感じることができるようにになった。この先、医療者となったとき、謙虚な気持ちを持ちながら自分に自信をもって生きることが私の目標であり、患者さんの人権を守る医療者に育つための課題でもある。・・・」

この季節、江戸川の土手の枯れ草は寒風に負けじと必死に土手にしがみつき春を待っている。土手の向こうには雪をかぶった富士山が夕日に赤く染まり、学生たちに温かい励ましの言葉をかけている。学生のみなさんの前途に幸多かれと願う。

学校行事

2011 写真で語る

第17回 東葛看護専門学校体育祭

2011年7月8日に第17回体育祭が行われました。昨年よりも開催時期が遅かった為、非常に気温が高く、体育館の温度も高かったが、最後まで競技を行う事ができました。今年の種目はムカデ競走、混合バレー、ドッジボール、



借り人競争、男子バレーでした。どの競技も盛り上がり、どのクラスも楽しんで参加することができたように思います。去年の感想から男子だけの競技があつてもいいのではないかとの意見があったので、今年は男子だけの競技を行い、盛り上がったとの意見が多く、実施して良かったと感じました。総合優勝は1科3年、2位が1科2年、3位が2科2年、4位が2科1年、5位が1科1年でした。水分を摂る時間を作ったりしたが、途中で体調が悪くなってしまう人が出てしまったので、来年は開催時期の検討をした方がいいのではないかとふり返りました。また、今年の体育祭では大きなケガをしてしまった人もいたので、準備体操の徹底と決して無理をしないように促すのも必要だと思いました。来年は今年の反省を活かして、ケガ等無く、楽しい体育祭にしましょう。みなさんお疲れ様でした。

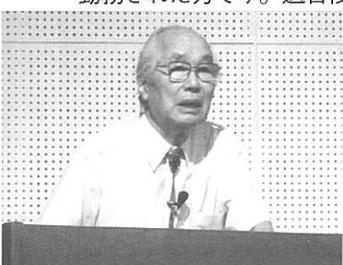
(実行委員長 木村 俊, 他実行委員)

第17回 東葛祭

2011年9月30日・10月1日第17回東葛祭が行われました。今回のテーマは「ドドスコ東葛LOVE注入～今こそ心を一つに頑張ろう～」でした。

3月11日に東日本大震災があり、私達もこの大変な状況から再生していくために、看護学生として出来る事を考えテーマを決めました。

東葛祭1日目の午前は、「学びの発表」で各クラスの特色を活かし、「呼吸訓練」「原発及び被爆問題」などで学びの共有をしました。午後は上野正彦さんを招き講演をしていただきました。上野さんは、東京都監察医院に入り監察医として勤務された方です。退官後は法医学評論家として執筆活動を



開始し、著書「死体は語る」がベストセラーとなりました。講演会では一枚一枚の写真から死体が語っていることを学生達に教えてくれました。

2日目は、人命救助を誰もが出来るように今年からAED実演を試みました。他にも縁日や出店・食堂・お化け屋敷など他学年との交流を深めることで心を一つに達成感を味わうことが出来ました。地域の方や患者さんなど外部からもたくさんの方々を来てくださいり、楽しい東葛祭になりました。

(実行委員長 沼澤 太郎, 他実行委員)



原水爆禁止 2011年世界大会

原水爆禁止 2011 年世界大会に参加して

全村避難になった飯館村の隣の伊達市から来た。震災翌日から子ども達は断水の為に水くみや買出しを手伝っていた。その頃は雪が降っていた。3／12にメルトダウンし放射能が空気中に出でて、雪や雨に放射能が含まれている恐があるという。だけど、それを知ったのは1ヶ月後の発表のとき。今回これが起きるまで、1つの原発に燃料棒が1本や2本ではなく何十本、何百本も入ってるなんて知らなかった。現代では便利な生活は手放せず、その為には電力が必要だけれど、原発に頼らない道を選ばなくてはいけない。子ども達に負の遺産を残してはいけない。

今回の大会で、ノーモアヒロシマ・ノーモアナガサキにノーモアフクシマが入ったことが衝撃だった。福島の子供が将来、仕事や結婚・出産で苦しむのが怖い。子供たちに夢や希望を持ち帰りたいと原水禁の地に探しにきました。

(パネルディスカッションに参加していた福島の中学校教諭の感想)



から、政府は情報を出さない。被爆の現状を隠そうとした。なぜ、政府が行った戦争なのに責任を取ろうとしないのか不思議であり、憤りを感じる。事実を明らかにしない行動は今の政府でも行われ、福島の原発・放射能事故の対応に繋がるのではないかと思う。

(被爆者訪問にて (レポートより一部抜粋))



今回お話をくださったKさん（男性）は4歳8ヶ月の時に被爆された。66年たった今も8月9日が近づいてくると憂うつな気分になり、当時のことを思い出すという。Kさんのお話を聞いて、これまで壮絶な思いをしてきたのに淡々と話すKさんをすごいと感じた。その反面、私はとても胸が苦しくなり、驚いた。何の知らせもなく投下された原爆が、人生を一瞬にして変え、悲惨なものにしてしまうと思い、原爆の恐ろしさを改めて思い知らされた。

これまで原爆投下当時の話を聞いたことはあるが、Kさんの様に、もの心ついた時から被爆された方のお話を聞いたことがなかった。被爆したことでいじめられ、差別された人々がいたことを、はじめて知り衝撃を受けた。

被爆した方々は何の罪もないのに、なぜいじめや差別を受けなければならないのか。

情報不足のために国民みんなが真実を知らず、見世物にされ、伝染病というデマが流れ、被爆者が苦しめられた。当時



原水爆禁止世界大会に参加させていただき、被爆者の話を聞き、原爆での放射能の被害の残酷さや放射能で外傷を負った子どもがいじめられ、差別を受け生活してきたという現実を知り、驚き、憤りさえ覚えた。なぜ何も罪のない子どもが苦しまなければならないのか。そして今、福島の原発事故があり、放射能の被害を受けた子どもたちが、同じような思いをしなければならないのはおかしいと感じる。だからこそ、脱原発を訴え自然エネルギーに変えていくべきなのではないかと思う。この学びを自分だけの学びにせず、身近な人達から伝えていくことが大切だと感じ、脱原発・核兵器ゼロに向けて訴えていきたいと思う。

(参加)

1科2年生 田岡 愛, 高橋 彩, 田中 沙織
教員 生田 知歩

学生と1科1年生 共に歩んだ一年

1科17期生

一同

担任

福井 慶子, 稲垣 加奈恵

17期生は、「共に学び・共に救い・共に聴き合えるクラス」という意味の「共聴学救」をクラス目標に掲げ、私たちは看護師の道のスタート地点に立ちました。

＜交流会＞

震災の影響で合宿がなくなってしまい、校内で行う事になりました。この学校特有のGWでお互いの目標や看護師になりたい理由を話し合い、その中で目標や理由は違いますが、看護師になりたいという強い意志が皆の中にあると感じる事が出来ました。つゆだくで少ししゃっぽい焼きそばも皆で食べるとおいしく感じ、食後のデザート争奪戦も盛り上がりとても楽しいものになりました。

交流会前は恥ずかしさがあり仲良くできるか不安でしたが、次第に打ち解け笑い合える程になりました。



＜車椅子ウォッチング＞

道やお店に不便を感じる事もなく当たり前のように生活していました。

いざ車椅子を使用している人の立場になってみると、道路の段差や傾斜に脚を取られる怖さや、陳列された商品棚同士の狭さや道幅の狭さ、周囲の視線が必要以上に気になる事がわかりました。この体験を通して、車椅子を使用している患者さんが普段どのような気持ちで生活しているのか知りました。この事から、車椅子をゆっくり押す事や、段差の時の声かけは不安を取り除くために必要な事だと感じました。

＜基礎1 - 1実習＞

「何をしたらいいいのだろう」「患者さんとはどんな人だろう」と不安と緊張の中臨みました。

ドキドキしながら患者さんと向き合ったあの感覚は忘れません。

学校での演習とは違う環境・そして患者さんの腕の細さなど人間一人一人違う事は頭ではわかっていたはずですが、唯一できるバイタル測定や環境整備も思うように出来ませんでした。患者さんを目の前にして改めて気付かされ技術不足や・無力さ・考えの浅さを実感しました。最初は会話が噛み合わずコミュニケーションを取る事の難しさを知りました。また勝手に決めつけ看護計画を立ててしまう事もあり、ありのままに捉える事の難しさを知りました。

患者さんは、様々な思いや願い、不安を抱えて生活されている事を知り、日々のコミュニケーションによって気持ちを聞きそこから患者さんを捉えていく事が大切だという事を学びました。





<体育祭>

17期生、スポーツ好きが多く、ほぼ毎日体育館で練習して団結力を高めていきました。でも、当日は先輩方がクラスTシャツを作っていて、一致団結して応援している姿を見て、緊張して上手く行きませんでした。バレーボール以外の競技でも先輩方の団結力の強さを見て、私たちは団結力に欠けていると実感しました。しかし、それまでの盛り上がりや、練習、応援した事は心に刻まれました。皆が一丸となり勝利へ向けて応援ができ、とても充実しました。



<基礎1 - 2実習>

前回の実習の失敗や後悔を生かし、実習に臨みました。実習目標でもある「患者さんとは何か」についてクラス全員で話し合いました。患者さん自身なりたくてなったわけではなく、出来る事なら普段の生活通り好きな事を自力でやりたいと思っているはずです。それが制限されてしまっている事を理解する事が大切だと気付きました。そして、病状の回復度にもよりますが、患者さん自らが出来る事を増やす事で援助する事が必要だと感じました。そして楽しみを増やす事が闘病意欲を向上させる事に繋がると思いました。患者さんも「一生活者である」という事を学ばせて貰いました。

<座学・レク>

学校生活では、体育の授業で大縄跳び200回をクラス目標に挑戦しました。初めは連続40回も飛ぶ事が出来なかったのですが、みんなで協力し合い、目標達成する事が出来ました。最初は自分から発言する事が出来なかったGWも回を追う毎に積極的に意見を発言する力が付き、お互いに学びを深められました。クラスの親睦を深めるために、誕生日会を開きました。お菓子やケーキを用意し、皆で心からお祝いしました。

この一年を通して、たくさんの事を学びました。この経験を生かし、「患者さんを一番に考えられる」

「患者さんの願いに寄り添える」看護師

を目指して行きたいと思います。

立ち止まった時は、クラス皆が支えて一緒に成長していきたいと思います。

こんな17期生ですが、これからも温かく見守っていて下さい。



学生と1科2年生 共に歩んだ一年

1科16期生

一同

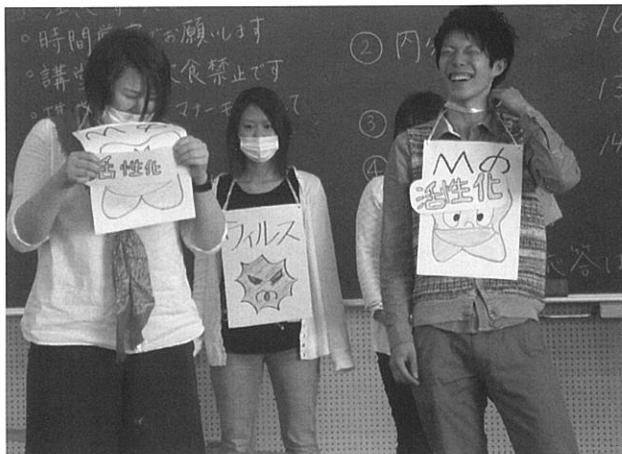
担任

青山 陽子、江島 典子

生命活動

生命活動では、人間誕生・循環器・消化器・呼吸器・脳神経・骨筋・内分泌・免疫のそれぞれ8つの系に分かれ、時間をかけて学びを深めました。呼吸器グループでは起源や発生から調べ、肺はもともと消化器の一部だったことや、呼吸がどのように行われているか、その呼吸が生命活動にどれだけ大切なことなのかなどをグループ全員で協力し、教えあいました。学びを深める中ですれ違いましたが、その分より深い学びとなりました。

そしてそれをゼミ発表で劇や模造紙を使用しわかりやすい発表を行いクラス全員で交流しました。それぞれの系との繋がりがあり生命活動が行われていること、生命活動の素晴らしさを改めて感じることができました。みんなで楽しく学びあつたことは思いでとともに一生忘れません。



田植え

生命活動の一環として5月には田植えを行いました。みんなはキャーキャー言っていましたが、裸足で泥に触れ、たくさんの生き物がいたりして楽しくて夢中になって稲を植えました。そして秋を迎えると、その稲をみんなで汗水流して刈って・・・・。この日から私たちが食べているお米に対して、今まで以上に有難みが増しました。



成人1実習

2年生になって最初の実習でした。1人受け持ちで病態をおつていかなければならぬ実習でしたが、グループの中で協力することができました。また病態を捉えていく中で、同じ病気でもその患者の生活背景によって進行や病期が全く異なっているということを実感し、個別性のある看護を実践する重要性を学んだ実習となりました。ゼミ発表ではCOPDの患者さんを受け持った学生が多かったので、COPDについての学習会を開き自身の受け持ち患者以外の疾患についても深く学ぶことができました。この実習でインシデントを出すことが多く、迷惑をかけてしまい、チームで問題を共有し改善する必要性についても学びました。3年次にもクラスやグループで活かしていきたいと思います。

収穫祭

収穫祭では各論実習のゼミが終わってすぐに行いました。収穫祭前に実行委員を結成し中心となってアイデアを出し合い、段取りをしていきました。当日はNPO法人ホタル野から辺見さんに来ていただきました。各論実習で支えあったメンバー

に分かれてご飯担当のグループが持参した白米に私たちが植えた黒米を混ぜて炊き、水炊きやちゃんこ鍋、キムチ鍋といった鍋ものを作つてご飯の友としました。鍋は作りすぎたという反省点も残りましたが、自然の有難さと生命の力強さを感じながら、とても楽しい時間を過ごすことができました。

各論実習

各論実習ではたくさんの患者さんと関わり、患者さんの個別性に合わせて実践していきました。また、4か月という長い実習だっただけに、悩み、壁にぶち当たることも多々ありました。しかしその度にグループメンバーに支えられ改めてグループで実習することの意義を確認し合いました。

母性実習では女性にとって出産は人生の中でとても重要なことであるため1人の方に大勢のスタッフが関わり産まれてきた新しい命に出会ったとき、とてつもない感動と幸福感を味わいました。

小児実習では患児と関わる中で看護の対象が子どもだけでなく家族も含まれていることを知った。疾患を見るだけでなく成長発達段階からも看護につなげる必要性があることを知りました。

外科実習では手術に向かう患者の言葉の裏にある思いや手術を受ける決意について考えるきっかけとなり命と真剣に向きました。

合う患者さんの姿をみることができました。また、手術後日々回復していく姿を見て、人間の元々持つ力の素晴らしさを感じ大きな学びとなりました。

精神実習では知らず知らずのうちに持っていた偏見に気づくとともに、自分自身を見つめなおすきっかけなりました。

共に学びあう学習会では「どうすればわかりやすく患者さんに伝わるのか」を1番に考え、又患者さんだけでなく自分達の学びにもつながるようにグループメンバー全員で夜遅くまで準備を行い協力して発表することができた。

ゼミでは一人一人が今回の実習を振り返り、良かった点・改善点をクラス全体で意見交換し学びにつなげることができました。



学生と1科3年生 共に歩んだ一年

1科15期生

一同

担任

高田 澄子、菊池 静華

【7月 体育祭】

2年次の後半にあった地域フィールドでは地域で生活している人々の生活・労働・健康・医療を体験的に学んだ。病院に行きたくても経済的な背景から医療費が払えず体調が良くならない人や過酷な労働状況を知る事ができた。病気は自己責任ではなく様々な生活環境や労働、貧困問題が関与しているのだと実感できた。患者さんの病気が生活や仕事と深く関連し、社会の仕組みについて学んだ。

3年次の最初の実習、老年・在宅実習では地域フィールドで学んだ生活背景から患者さんの事実を捉え社会保障へと繋げた。「家に帰りたい、在宅での生活を続けたい」という願いがある一方で、社会保障の不十分さ、実態について学び憤りを感じた。社会保障ゼミを企画し、制度の仕組みや現状を皆で共有する学びになった。

日本国憲法と平和と医療をテーマにした研修旅行では、ひめゆり平和祈念資料館やガマの見学、沖縄国際大学の学生との交流会など楽しい企画を交えての研修となった。沖縄の豊かな自然、そして人々が安心して暮らしていくためには、平和を守り戦争の歴史とともに憲法や安保条約、基地問題など様々な視点から戦争と平和について考え伝えていかなくてはいけないのだと感じた。

総合実習は3年間の集大成、今までの学びを活かし「基本的人権を護る医療者・看護の実践者」に育つために自己の問題意識を持った。認知症があり、誤嚥の危険があり食べることができない患者さん、不穏状態と思われた患者さんの思いに昼夜そして夜間付き添って見た。少しでも患者さんの願いに近づけられる様、真摯に向かい合い続けながら、認知症とは何かを模索した。認知症があつても人として接することでその人らしさを引き出すことができた。また人間にとって口から食べる重要性がわかり研究として発展させ卒論に向かった。クラス皆の一人一人が看護観、医療観、労働観や健康観はどれも素晴らしい全員が3年間の成長を実感しそして医療者になる自分の課題と向き合い、全員で共有する学びができた。(飯尾)



2連覇達成! (青山)



燃え尽きた体育祭!
男子バレー部最終戦
(喜多・加藤)

【8月 第3回 夏レク in 群馬】



水沢うどんとまいたけ天
おいしかった (田地野)



初ラフティング最高! (石田)



大自然満喫してきたよー♪ (名久井)

【10月 東葛祭】



みんなでワイワイ楽しかったよ♡ (朝倉)
人生最後の東葛祭♡ (長田)
うどん、おいしかった♡ (駒沢)



【後夜祭のコーラーー氣飲み＆おかし早食い】
おいしかったけど、ゆっくり食べたかった (松坂)
最後の後夜祭盛り上がったね～↗ (徳堂)

【研修旅行】



【沖縄国際大学のみなさんと記念撮影】
みんなの思いを聞けた素敵な時間でした (関口)



辺野古にて、米兵と・・・ (西谷)



燃え尽きたバナナボート (是石)



研修旅行での飲み会盛り上りました (竹村)

【総合実習・卒論発表】



かぶぬけた～！！ (石井) by 3南お楽しみ会



3年間の学びや見えてきた事実から、どんな看護師になりたいか発表しました (平)

学生と2科1年生 共に歩んだ一年

2科17期生

一同

担任

斎藤 みゆき, 伊波 すみ子

4月（田植え） 9月（稲刈り）

生命活動で私達が生きていく為には食べるという事がとても大切である事を学びました。

収穫祭を行い、生命の恵みに感謝しながらカレーライスを作りおいしくいただきました。

田植えや稲刈りはとても重労働でしたが、大きく育った稻を見て生命の力強さを感じる事ができた学びとなりました。



6月（フィールドワーク・車椅子体験）

9グループにわかれて車椅子に乗り、地域へ出かけました。バスや電車の使用では他者の協力がないと自力での乗車が難しいことや、歩道の段差や傾き、点字ブロックが進行のさまたげになることを学びました。

商店での買い物も欲しい商品の棚に手が届かなかったりし、いつもの暮らしの中にかくれていた不便さや不自由さを発見することができました。



5月（学内基礎看護技術演習）

患者役と看護師役にわかれ、ベッドに寝たままの状態で洗髪を実施。

患者役では洗髪の気持ち良さや長時間同じ姿勢でいることの苦痛、看護師役では手早くていねいに行うことの難しさや患者役に負担をかけない姿勢の工夫などについて発見し、学びました。





6月（体育祭）

10代中心の1科・年齢もバラバラで平均年齢の高い2科。なかなか若い1科にはかないませんでしたが、唯一1位となれたのが“むかで競走”。

協力すること、団結することの素晴らしさを学び、クラスの団結力も高まりました。

8月（ビオトープ 関さんの森）

都会の中のビオトープ関さんの森へ行きました。夏の暑さの中、森へ一歩入ると自然の涼しさに驚きました。

初めて竹を刈り、初めは1本刈るのも大変でしたが、だんだんと慣れていくみんなで力を合わせ沢山あつた竹を刈ることが出来ました。
自然の大切さを改めて学ぶことが出来ました。



10月（東葛祭）

東葛祭、縁日コーナーの1コマです。

カッパに変装して子供達にも大人気でした。



皆で準備てきて当日どれもアツという間に売り切れ大盛況でした。

皆でやり遂げて達成感を感じ事が出来ました。

学びの発表で免疫の仕組みについて劇をしました。分かりやすく説明する為にお面や名札を作ったり、スライドを使用したり工夫をしました。

上手く発表できるかどうか心配でしたが、皆で力を合わせて成功させる事が出来ました。同時に人間の身体には生体防御の為に素晴らしい仕組みがある事を知る事が出来ました。



11～12月（基礎看護実習）

基礎実習の健康学習会。

テーマは「脳の可塑性」です。学生の受け持ち患者さんを含め、20名のみなさんが参加して下さいました。

同じ疾患であっても、患者さん1人1人病態は異なる。

個別性の看護をするには、患者さんの生活史を知ると共に、病態をしっかり学んで理解する必要がある事を学びました。



2011/12/12 16:23

学生と2科2年生 共に歩んだ一年

2科16期生

一同

担任

生田 知歩, 徳丸 美津子

各論実習

外科、小児、母性、精神と4クールの実習を行なった。小児実習では肺炎、喘息発作を起こした脳性麻痺の1歳9ヶ月の児を受け持った。自宅では食事は離乳食後期を食べ、ハイハイも少しできるようになり、支えがあると座位保持ができるまでに成長していた。母親は入院により発達が後退することを懸念していたため治療の応援と共に遊びを通して児の発達を促す方針をたて実践した。健康学習会では、座位でおもちゃを取りうる何度も手を延ばす動作がみられた。また、「いないないいばあ」をすると声を出して笑った。児の楽しそうに手を延ばし声を出す姿から、看護実践は、子どもの発達を応援する技術が不可欠であると学ぶことができた。



4クールの各論実習を1年次の学びを土台に取組み、改めて健康の回復には患者の願い、要求を捉え、応えていくことが大切だと学ぶことができた。



体育祭

2科2年は去年5位（最下位）ということもあり始まる前から皆張り切っていました。男女合同の競技でも声を掛け合い協力しながら実施することができ、皆が力を発揮した結果3位入賞を果たすことができました。1年間苦しい事も辛い事も皆で乗り越えてきたチームワークの良さが出たのではないかと感じました。この体育祭を通して今年のテーマ「がんばろう！東葛！！みんなの絆ボボボボーン」とあるように一層絆が深まり、協力し合うことの大切さを改めて実感することができた体育祭になった。



7月に群馬県草津町にある栗生楽生園を訪問し、療養所にある重監房跡地や納骨堂を見学し、衍雄二さんから生の声を聞くことができました。歴史や人権について学ぶ中で、ハンセン病は治る病気であるのに偏見や差別を受け、国の政策によって隔離されたことを知りました。帰る故郷もなく、名前を変え、出産も認められない事実があり、病気になった苦しみだけでなく、人権もない扱いをされていた事を知りました。またお話の中では「私たちは人権を失っている。しかしここ（栗生楽生園）は人権のふるさと、失った人権を獲得した場所である。人権を学ぶ場所として、後世に残したい。私達の思いを知ってもらいたい」と話してくださいました。そして私たちはハンセン病の歴史から正しい事実を知り伝えていくこと、人権が尊重される社会になるよう訴えていかなければならぬと感じました。



2科16期生 研修旅行

研修旅行で、水俣・長崎・原爆資料館・佐世保基地に行ってきました。

水俣では、有機水銀を有毒と知りながら利益を優先してメチル水銀を排水し続けたチッソ工場、その代償として水俣病が発症し、多大な被害をもたらしたこと、工場は分社化され存続し、被害者へ補償はされていないことを知りました。また、水俣湾の土壤はメチル水銀に汚染されたため、土壤を陸に埋め立てているが、まだ海水成分にはメチル水銀が検出され基準値を上回っていることも知りました。私たちは地域の方々が安心して暮らせる環境・十分な補償と人権が守られる社会を国に強く訴えていく必要があると学びました。

長崎では、被爆体験された山田拓民さんにお話を伺いました。原爆の後遺症を患い、ご家族が次々に亡くなられ、山田さんの深い悲しみと苦しみ、悔しさを感じ、原爆の脅威が伝わってきました。長崎平和祈念像や平和の泉から、原爆を二度と繰り返さないでほしいと願う人々の想いを感じ、原爆投下中心碑や、被爆当時の地層、原爆資料館での原爆投下時刻を示す時計、溶けたガラスにくついた骨などの展示品から原爆の恐ろしさを学びました。

福島原発事故があり、放射能による被曝問題が大きく取り上げられました。原爆も原発も減量は同じであることを学び、二度と原爆・原発事故を起さないために私たちが発信源となり、原爆・原発の恐ろしさを伝えていかなければならぬと感じました。

佐世保基地では、米軍基地の周囲は黄色い線で区切られ「国境」と呼ばれていることを知りました。米軍問題に詳しい山下千秋さんに案内していただき説明を聞いていると、トランシーバーを持った警備員に何度も「何をしているんですか」と聞かれました。周りが急に緊張に包まれ、重々しい雰囲気が漂い、佐世保市民は米軍基地に近付くだけで「テロリスト」のような扱いを受けていると感じました。軍事強化により今も米軍基地が拡大しつつあることも知りました。この現状は日米安保条約により日本が協力している結果だと感じました。夕食交流では全員が学びを発信し、ものまねやポールダンスで盛り上がり、仲間との楽しく充実した時間もありました。私たちは日本国憲法を学び、医療人として憲法第9条の平和主義の意義を伝え、守っていく必要があると改めて学んだ旅行となりました。



<総合実習>

2年間の学びの集大成である総合実習では、患者さんのありのままの姿・願い・要求から出発し、基本的人権や医療・社会保障についてグループで研究テーマを決め、クラス全員で学びを共有することができました。実習中に受け持たせて頂いた患者さんは自宅に戻りたいと願っていました。実習終了後、退院した患者さんを訪問すると、病院では見ることの出来なかった生き生きとした表情で学生を出迎えてくれました。「やっぱり家はいいですよ。」と話す患者さんは見違えるほど元気で、声も表情も明るくなっていました。5名の患者さんの中で自宅に戻ることが出来た患者さんは2名でした。患者さんの願いである在宅に戻る為には介護保険要介護度5であっても、24時間の介護・医療を受けられない実態がありました。今の日本では家族の介護が中心になっていることで、介護負担が重く、同居の家族がいないと自宅に戻れない状況を知ることが出来ました。「住み慣れた自宅で生活したい」という基本的人権が日本国憲法で保障されていないことに気付きました。「いつでも、どこでも、誰にでも」安心して医療が受けられるよう、患者さんに直接接する私達医療者が、患者さんの声を国や政府に対し代弁することが重要だと改めて学ぶ事ができました。

災害看護演習

新カリキュラムでは、「看護の統合と実践」という分野があらたに作られ、現在の1科3年生・2科2年生から実施しています。災害看護学の授業構築のために、2011年1月3月と災害支援ナース養成研修に参加しました。研修を受けて間もなく東日本大震災が発生。学生に災害看護について授業をすることの重要性を痛感しました。

実際の授業では、災害の概念や災害時の看護師の役割などを講義し、演習に取り組みました。演習では、地域に災害要援護者がどこに多く存在するのか、災害拠点病院・地域の救護所になるような開業医などを把握する災害MAP作りと、トリアージ演習を行いました。

MAP作りでは、学生はワイワイとグループで話しながら、「避難所になるのは学校だけじゃないんだね」「診療所や獣医さんも救護所になるんだ」など地域の様子

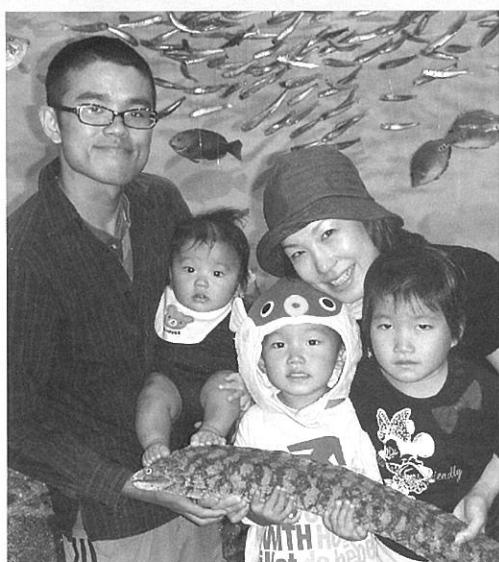


を知る必要性を学びました。トリアージ演習では、実際のトリアジタグを使い、被災者役や救護班役を体験。外傷特殊メイクまでは行いませんでしたが、学生達の意識も高く取り組んでいました。そして、救急医療ともコラボして救急医療に携わる卒業生に講義を演習をお願いし、BLS演習も実施しました。来年からぜひ東葛病院のトリアージ演習に患者役として学生が参加して、授業の一環として取り組めたらと考えています。(災害看護演習担当教員 菊池 静華)

ようこそ先輩

私達は1科6期卒業生の、刀禰俊介（東葛病院5東勤務）、刀禰真弓（たんぽぽ訪問看護）です。現在は3人の子供の育児に奮闘しています。それぞれ夜勤や、夜間の緊急訪問もあり、仕事はたいへんですが、家庭内でも仕事のことをお互いに相談しあうこともあります。日々新鮮に看護師という仕事を向き合っています。同期生も同じ年頃の子供を持ち、おたがい助け合ったり、遊びに行ったりと、学生時代とかわらず楽しゅやっています。

1科6期生 刀禰俊介、刀禰真弓



刀禰家で水族館へ

学生自治会紹介

自治会長 高橋利典

こんにちは。第16期学生自治会です。

昨年9月に役員選挙を行い、新たなメンバーで活動しています。学生が主体となり、より良い学びを深めていけるような学生生活を目指しています。昨年は東北の被災地へ義援金や物資を送り、学内では節電の実施等に力を入れ活動してきました。今後の活動内容としては、全校生徒を対象にアンケートを実施し、学生一人ひとりの声を聞かせていただき、今後の自治会の活動を検討していきたいと思っています。その他に、国家試験激励会や3年生を送る会、新入生歓迎会などを予定しています。学生自治会は、皆さんより良い学生生活を送れるよう頑張っていきたいと思います。



第16期学生自治会員(2011年9月～2012年9月)

自治会長 高橋 利典

副会長 大野 里奈 星平 香愛

会計 後藤 佳子 田岡 愛 加藤 森

書記 小宮 恵 藤田 英 八重津直子

庶務 浅木 祐 大宮 伸哉 植木 忍

ようこそ先輩



6期生のみなさん お元気ですか？

みなさんが卒業されて早いもので10年…

それぞれの場で役割を發揮されていることと
思います。

昨年は、3.11の東日本大震災により多くの尊い命が犠牲となり、また、原発事故により今もなお多くの人がその人災に苦しんでいます。学校のある東葛地域もホットスポットで場所によって

は、福島並みの放射線量が測定されています。医療・介護をめぐる情勢も厳しい状況は変わりませんが、目の前の忙しさに追われるのではなく、患者さんの苦しさの背景にあるものは何なのかをしっかり見極めていきましょう。新聞を読んでいますか？世の中の動きを知り、「自分に何ができるのか？」を考えつつ、前進していきましょう！

1科6期生 担任 井上 裕紀子



看護教員になって、初めて担任になったのが9期生です。卒業から6年がたち、病棟でも、中心的に活躍し頼もしいですね。看護学校では精神科看護の講義、臨床では実習を担当していただいている。生き生きと笑顔で、優しく患者さんと接し誰からも信頼されています。働きながら3人の子育てと、女性として生き方を模索しながら、人として成長している姿は、大変だけどもやりがいがあると思います。9期生のクラスは

学生時代から仲間と共に支え合い、励まし力をつけました。いつまでも「患者さんから学び、患者さん、家族を応援できる」沢田さんでいて下さい。

2科9期生 元クラス担任 伊波すみ子

私は臨床指導を担当していますが、学生さんの実習の学びを通して、自分自身が初心に帰る事ができ、看護を振り返る良い機会をもらっています。

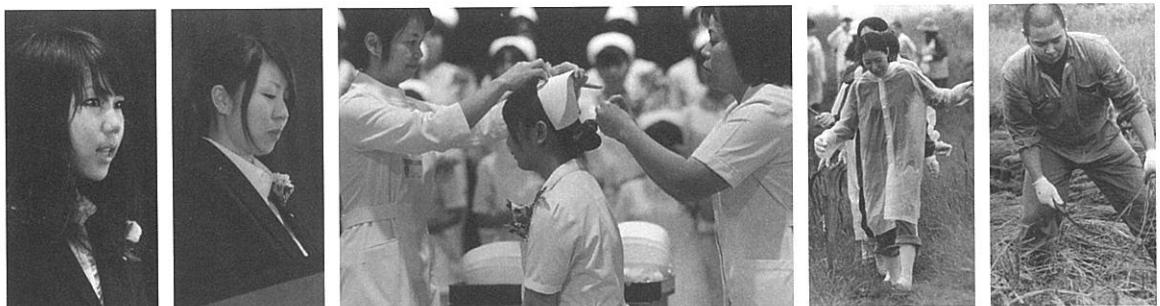
看護学校でのいろいろな学びは、これから歩んでいくための大きな自信になっていくと思います。

2科9期生 沢田 良江



学ぶ青春

キラリ



入学式 決意表明

ナーシングセレモニー

稲刈り



'11.3~'12.2

**小林功
モノクロ写真館**



東日本大震災 支援募金



田植え



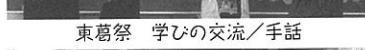
沐浴演習



校内体育祭



県下看護学生研究発表会



東葛祭 学びの交流／手話

後夜祭

東葛祭

山口通先生